

## ヒアリング対象者

車 司

富山県生活環境文化部自然保護課長

石原 三義

山梨県観光部観光資源課長

菅谷 行博

長野県環境部自然保護課長

穂苅 康治

槍ヶ岳山荘代表

(敬称略)

## 山岳地域環境保全の実態について（富山県）

富山県生活環境文化部自然保護課

### 1 富山県の実績

環境省の補助を受けて整備した箇所・・・平成11年度から平成22年度までに20箇所

	箇所数	整備率
富山県内の山小屋数（休憩所等含む）	53箇所	
うち、補助による整備済箇所数	20箇所	37.7%
うち、すべて自己資金による整備箇所数	4箇所	7.6%
うち、未整備箇所数	29箇所	54.7%
別記：避難小屋数	4箇所	

### 2 整備における効果

- ・ 登山利用者の意識改革。（その辺で用を足すことの減少。）
- ・ 登山人口の増加（トイレが汚くて敬遠していた女性や子ども等）
- ・ 山小屋周辺でのアンモニア等による自然界への悪影響の解消。
- ・ 山小屋周辺の高山植物の復活
- ・ トイレに対する苦情の解消

### 3 今後の計画等

3年以内に整備予定・・・3箇所  
 5年以内に整備予定・・・4箇所  
 時期未定だが整備予定・・・21箇所  
 整備時期未定の県有避難小屋・・・4箇所

### 4 事業廃止が山岳環境等に及ぼす影響等

- (1) 従来、極端に利用者が集中する場所には公衆トイレを整備してきたが、それ以外の地域は山岳地に点在している各山小屋にその機能を担ってもらってきている。これまで、山小屋のトイレは汚いなどの理由から、山小屋トイレを利用せず、その周辺で用を足す登山者等が多かったが、整備が進んだことにより、周辺の環境保全対策が進んだ。  
 今後、整備が進まないということになれば、山岳地の環境保全の推進や登山者の意識啓発の面で水をさすこととなる。
- (2) 受益者負担については、現状でもすでに各山小屋等においてチップ程度（100円、200円）の負担をお願いしているが、維持管理費の一部に充当するのが精一杯であり、多額の事業費をトイレの利用料だけで回収することは事実上不可能である。
- (3) 山岳地における公衆トイレの整備は、登山道の整備と同様、公共的な事業であり、事業の廃止は、山小屋だけに山岳地のし尿処理問題の負担を強いることになる。  
 山岳地に点在する山小屋に補助することで、山小屋の環境改善を図るとともに、公衆トイレとしての機能を向上させることは、一番経済的な整備方法である。また、山岳地を利用する一般の利用者のし尿処理対策に最も有効な方法であることから、富山県としても当該補助事業の継続を要望したい。

## 槍ヶ岳山荘代表穂苅康治氏のプロフィール

○昭和 24 年 松本にて出生

○昭和 47 年 大学卒業後、商社に勤務

○平成元年 家業の山小屋経営に入る

○平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月 北アルプス山小屋友交会会長

○平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月 北アルプス山小屋協会会長

○現在、槍ヶ岳山荘、槍沢ロッジ、南岳小屋、大天井ヒュッテを経営、  
岳沢小屋を建設中

※北アルプス山小屋友交会  
北アルプス南部のみの会

※北アルプス山小屋協会  
岐阜県・富山県分も含めた北アルプス全体の協会